

# 水稻生育情報 (No.5)

平成29年7月11日  
県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)

## 【生育概況】

6月の気温は中旬までほぼ平年並みでしたが、下旬から平年より高くなり、7月も高温傾向が続いています。日照時間は平年より多く、降水量は台風の影響を受けた7月上旬は多くなりましたが、全体では少ない傾向です。

管内のコシヒカリの生育状況は下表のとおりです。草丈は平年並み～高く、莖数は平年より多い地点が多く、葉色は淡い地点が多くなっています。生育は平年並み～4日進んでいます。

表1 水稻定点調査結果(7月10日時点)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	莖数 本/m <sup>2</sup>	葉色 葉色版 SPAD値	幼穂長 mm	出穂予測日 (月/日)
筑西市	5月2日	59	88.7	626	4.1 32.3	43.4	7/23
	(5月2日)	(62)	(80.2)	(587)	(3.7) (30.1)	(13.4)	(7/27)
下妻市	5月3日	47	80.8	581	3.6 32.3	23.2	7/25
	(5月1日)	(47)	(78.7)	(484)	(3.7) (30.7)	(11.4)	(7/25)
桜川市	5月16日	62	72.1	503	3.3 31.3	2.3	7/31
	(5月11日)	(58)	(69.8)	(510)	(4.0) (35.0)	(1.9)	(8/2)
桜川市	5月5日	56	80.1	462	3.2 30.7	8.8	7/27
	(5月6日)	(53)	(78.9)	(426)	(3.9) (31.6)	(11.2)	(7/28)

( )内は平成24～28年(5ヵ年平均値) ※桜川市真壁町飯塚は過去4ヵ年の平均値  
注)出穂日は、今後の天候により前後する場合があります。

## 【今後の管理のポイント】

### 病害虫の防除について

#### 1 いもち病(航空防除を行っていない地域)

今年の気象条件では特に多発の恐れは低いと思われませんが、飼料米用イネなど葉色の濃いほ場や密植で風通しの悪い圃場ではいもち病の発生が確認されています。いもち病の発生が見られた場合は防除を行きましょう。

#### 2 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は出穂期～糊熟期にかけて穂を吸汁し、着色粒による格落ちの要因となります。出穂前には畦畔などのイネ科雑草に潜んでいるので、草刈りを行い、生育密度を下げましょう。

また、出穂後の草刈りはカメムシを水田内に追い込む事になるので、出穂後2週間は草刈りを控えましょう。

併せて、航空防除を行っていない地域では成虫の飛来期である出穂期～穂揃い期に薬剤による防除を行きましょう。



写真 クモヘリカメムシ

#### 3 イネ縞葉枯病

今後の対策として、来年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるために、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らしましょう。

ひこばえはヒメトビウンカの生息地となるだけでなく、ウイルスの伝染源となるため、田んぼは早めに耕起しましょう。また、ヒメトビウンカは、幼虫が畔や農道のイネ科雑草の中で越冬します。餌となる雑草をなくせば、ヒメトビウンカが冬を越すことができず、来春成虫になる数を減らすことができます。冬の間でも枯れずに生育するイネ科雑草は除草剤でしっかり枯らしておきましょう。